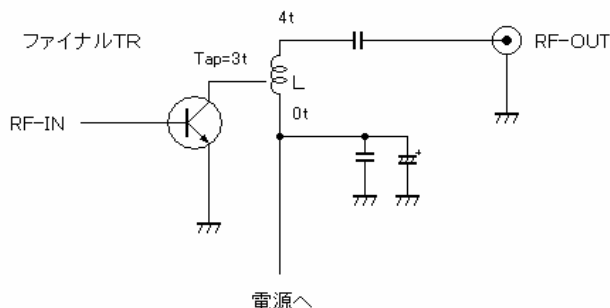


電源電圧 = 12V時

出力(W)	コレクターインピーダンス(Ω)	50オームに対して(倍)	タップ位置
0.1	605.0	12.10	3.48
0.2	302.5	6.05	2.46
0.3	201.7	4.03	2.01
0.5	121.0	2.42	1.56
1	60.5	1.21	1.10
1.5	40.3	0.81	0.90
2	30.3	0.61	0.78
2.5	24.2	0.48	0.70
3	20.2	0.40	0.64
3.5	17.3	0.35	0.59
4	15.1	0.30	0.55
4.5	13.4	0.27	0.52
5	12.1	0.24	0.49
6	10.1	0.20	0.45
7	8.6	0.17	0.42
8	7.6	0.15	0.39
9	6.7	0.13	0.37
10	6.1	0.12	0.35
15	4.0	0.08	0.28
20	3.0	0.06	0.25
100	0.6	0.01	0.11

タップ位置による、マッチング方法

CYTEC/2007-9



2W 出力時の例

$$L = \text{FB801} \# 43 \quad 4t / \text{Tap} \quad 3t \\ (4t \times 0.78 = 3.12t)$$

左の例は、2W出力時の物で、全体が4ターンの時、タップは電源から3ターンの位置になります。コアは、FB801を使用しています。

コイルからタップを出し、インピーダンスマッチングを取ります。実際のタップ位置は、**コア巻き数(t) X 表のタップ位置 = タップの位置 (t)** になります。

上の図のように、タップは電源から数えた巻き数になります。TRのコレクターをタップにつなぎます。出力は、2Wの例では4tの位置から取り出します。

表のタップ位置が、1以上の場合は、タップ位置までを何巻きと決め、タップ位置をかけた巻き数を、全体の巻き数としてコイルを製作します。

使用するコアは、DC電流を流す関係上、磁気飽和を考えなくてはなりません。コアの大きさは、ファイナルTRに流れる電流から、判断します。磁気飽和を起こした場合、出力波形がかなり歪みます。オシロなどでチェックしてサイン波が出ていればOKとします。また、連続送信時は、かなり条件が厳しくなりますので、そのような場合はコアのサイズを、一回り大きくします。コアをさわってみて、熱くなっていないければ、だいたいの場合大丈夫です。